


クラス	総合演習 104	担当教員	佐藤 慎一
	テーマ	学習・教育・ビジネスにおける ICT 活用を考える	
	著書・論文 研究課題等	共著・論文：「学校間交流学習をはじめよう」日本文教出版 2004 「実践型学習のための学習環境デザインとその評価」、CIEC 2007 “A case of overseas study tour based on an international collaborative learning Model”, International Journal for Educational Media and Technology, 2008 「SNS に蓄積された実践型学習の記録を閲覧するためのインタフェースの提案と評価」ヒューマンインタフェース学会論文誌 2008 研究課題：(1) 学習・教育における ICT 活用 (2) インタフェース開発	

ゼミナール概要

キーワード：キーワード：ICT 活用、教育工学、ソーシャルメディア

目的、内容、方法等：

ICT（情報通信技術）はビジネスや一般家庭において広く活用されるようになり、もはや技術者のみの道具ではないことは言うまでもないでしょう。こうした状況下、日進月歩の技術、また、生まれては消えていく様々なキーワードに振り回されることなく、ICT とうまく付き合っていけるよう、次のような点を重視して、ゼミを進めていく予定です。

■ 自らの体験・考え・主張を論理的に表現する

言葉にして伝えるということは、基本的なスキルであり、裏付けをしっかりと、論理的に表現することは特に大切となります。皆さんがどのようなテーマ・課題で活動していくにしても、どのような体験を取り入れるにせよ、この点を意識し、文書としてのアウトプットを残す、ということを重視していきます。

■ 各種メディアに対する知識・理解を深め、表現や活動方式の幅を広げる。

mixi に代表される SNS、YouTube などの動画共有サイト、さらに、各種のブログなど、いわゆるソーシャルメディアが普及し、ビジネスの方法にまで影響を及ぼしています。ソーシャルメディアは、使い方次第で毒にも薬にもなりうるものであり、これらの特性を着実に理解した上で、適切に活用していく必要があります。もちろん、現在でも活用方法が定まっているわけではなく、今後も新たな使い方が生み出されていくことでしょう。こうしたメディアに、情報の発信者として実際に触れながら、その基礎・特性の理解にも努めます。

■ 学習・教育方法に関する理解を深める

教育工学や学習科学と呼ばれ、人の学ぶ過程を分析したり、教育・学習目標をより良く達成することを目指したりする分野があります。こうした分野での ICT の活用・適用の事例を取り上げ、目的達成のための道具として効果的に活用していくためのプロセスについて学びます。あくまでも目的を達成することが重要となるため、ICT の活用が効果的ではない場合もありえます。こうした事例にも触れながら、ICT 活用について、あらゆる視点から考えていきます。

授業計画（スケジュール）：

ソーシャルメディアは、自らが情報の発信者になるということが、これまでのメディアに無い特徴であると言われてきました。こうしたメディアを体験的に活用しながら、単に使い散らかすだけでなく、その特性をまとめ、理論と照らし合わせて考察するということを繰り返していきます。これらの過程を文書としてまとめていく中で、論理的な思考力、発進力を高めていくことを目指します。

ICT・メディアを活用するためのフィールド、体験の場は、各自の関心領域を考慮しつつ、必要に応じて多くのフィールドを有する他ゼミとも連携を図っていければと思っています。

担当教員からのメッセージ

ICT は日常生活の中に入り込んでおり、もはや、得意・不得意という次元で片付けられるものではありません。どんな場合でも言えることですが、自分がやりたいことを実現するため・目的を達成するために必要なことは適宜、その時に勉強する、という姿勢で臨んで下さい。その積み重ねが力になるはずですよ。